

## ◆ 読み聞かせレッスン ◆

報告 図書館 森園佳子



今年度は読み聞かせを学べるレッスンを開催しました。読み聞かせは、かつては読プロ関連科目で学ぶことができ、近隣の保育園や小学校に出向いての実習などがありました。しかし、ここ数年は休講でレッスンもお休みとなっていました。しかし、図書館長の藤本先生のゼミ生などから読み聞かせを学びたいという強い希望があり、大学の授業としてではありませんが、「読み聞かせレッスン」を開催することになりました。本学の非常勤講師で児童英語教育の専門家である

永井雅子先生、読み聞かせや手遊びの指導者である菊地彰子先生というお二方を講師にお招きして、後期の後半で5回のレッスンを実施し、11名の学生が参加しました。

レッスンでは基礎として、藤本先生と永井先生から絵本の持ち方や選書の仕方、また読み聞かせの大切さなどを教わりました。絵本を選ぶ際には、20年間絶版になっていないものはよい絵本といえるので一つの基準となる、などの話を学生たちは真剣に聞いていました。



「絵の中に隠れているものは何でしょう？」

菊地先生は伝承されている昔話の語りや手遊びを実演して下さり、聴いている私たちは子どもに返ったような気持ちで楽しませていただきました。しかし、学生よりはるかに年長である職員の私ですら、知らない手遊び歌がたくさんあることに驚きました。手遊びやわらべ歌は遊んでいるうちに知らずに子どものリズム感や音感を鍛え、親子のスキンシップにもなる大切なコミュニケーションでもあるので、すたれないよう、未来の子どもたちに伝えていくべき大切な文化だと思いました。

来年度はレッスンの回数を増やして学生にも練習を積んでもらい、近隣の小学校などを訪問できたらと思います。

